

特集

# 准看，進学 コースでの 教育はいま



MAJOR ARTICLES

1996年12月20日、厚生省（当時）の准看護婦問題調査検討会は、その報告書のなかで「21世紀初頭の早い段階を目処に、看護婦養成の統合に努める」という結論を出しました。それから間もなく15年が過ぎようとしています。看護界が十分「努め」てきたように感じられないのは残念です。

看護系大学が200を超えた今、准看護師と出会ったことがない教員も珍しくないかもしれません。専門看護師や認定看護師などの高度な資格が増えていくなか、以前よりも准看護師が顧みられることが少なくなっているように思います。しかし、現在も37万5000人余りの准看護師が就労し、その教育が続いている現実から目をそらすことは、看護教育者として問題だと考えます。

今回の特集は、弊誌においても十分顧みてこなかった准看護師と進学コースの教育現場の実情を報告していただき、少しでも多くの看護教育者に現状理解をしていただこうと組まれるものです。15年前の結論に向けて「努め」ていくための指針となれば幸いです。